



発行所 長洲中央公民館 副編集人 藤末昌男 林田幸一 浦野一 印刷所 玉名新聞社

理想の臨工地帯造成 積極的な協力精神で

長洲町長 古閑 二夫

建設の年

三十七年度は、有明製鉄誘致のための諸問題解決に明けくれば、町民各々の御協力を得て設置確定の成果を挙げることができましたことは、私として本懐であり、町民の皆様と共に喜び合いたいと思っております。さて、三十八年度は、愈々、建設の年です。県の長洲臨海建設事務所では、長洲港附近海面五万坪の埋立に着目し、三十九年度には、最新型ロータリーキルン一基乃至三基を据え付け、四十年度には、製鉄作業が開始されることを期しての建設を考へたい。

観光施設の整備

有明航送船業開始前は、種々期待をかけられていたが、今日になってみれば、埃りをかぶるばかりで、地元は何等得る処はないと言ふ人もありますが、長洲町の海の玄関として整備され、体裁もでき、町としての利益は有形無形に多大なものがあると思つております。

都市計画に町民の協力を

長洲町の位置、引込線についても、大工場、大都市にふさわしいものでありたい。都市計画も、計画の線に沿って着手の段階であり、四十年には、港から平原への第一号幹線は実現する予定です。

成人者感想文入選

成人となりて

出町 大塚 民子

成人となりて、二十才という年齢が、そのいかに過ぎたか、と感慨無量なものがあつた。二十才という年齢が、そのいかに過ぎたか、と感慨無量なものがあつた。二十才という年齢が、そのいかに過ぎたか、と感慨無量なものがあつた。

結婚の簡素化推進

(新生活運動)

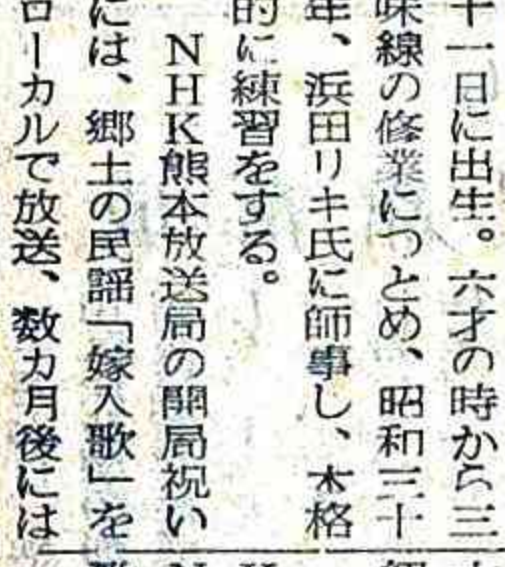
新生活運動が政府により提唱されてから、最早、十年になつてゐる。当初、公民館でも、結婚簡素化を生活改善部として取り上げ、二十数組の公民館結婚の夫婦が門を出て行き、当時、当事者達には喜ばれてきたけれど、数年前から、何時とはなく立派なリバイバルブームに乗り、又昔の派手さに逆戻りした感じの晴姿であり、できるだけのしつぱりしたものが親心である。嫁入道具も派手になつたけれど、それは使えぬものばかりで、披瀝を三日も三日もするのには、再考の余地があるのではないだろうか。飲食に多くの金を使うより、新しい結婚生活への必要な物を、蓄える方が

表彰者功勞者教育社会

長洲町教育委員会は、一月十五日、成人の日、第一回の長洲町社会教育功勞者の表彰式を行つた。被表彰者は、「長洲郷土物語」の著者である故郷の清住尊義氏、目下、尚、芸道に精進中の楠本テツ氏、長年婦人教育に貢献された宮部メイ氏の三氏である。



清住尊義氏は、明治二十八年七月育の向上を計るため母親学級を三十日に出生、長年、県立熊本農業学校や青年師範学校に勤続されて現在、婦人学級の母体を取り、退職後は清台寺の住職となつた。又、先生は専攻が文学で、郷土史研究にも深い関心をもち、P.T.A会長在職中、昭和二十七年十二月八日、長洲郷土物語を著し、P.T.Aより発行し、郷土史研究に貢献された。



楠本テツ氏は、明治二十三年八月十一日に出生。六才の時、三味線の修業につとめ、昭和二十一年、浜田千代子氏に師事し、本格的に練習をする。NHK熊本放送局の開局祝いに、郷土の民謡「嫁入歌」を歌い、NHKに入社し、十数回「嫁入歌」を放送した。又、楠本氏は、地元の子弟に



宮部メイ氏は、明治二十二年十一月九日出生。旧姓は鈴木。昭和十二年より戦後二十三年まで十一年間、六栄村婦人会長として、婦人教育の第一線で活躍し、又、戦時中の人手不足の程の秀才で、卒業後、荒尾の小学校に教員として勤めた。昭和二十三年には民生委員となり、三十七年まで十四年間務め、同年、公選の教育委員となり、村の教育の向上のために努力してきた。(林田記)

長洲町行政日記(一月分) 四日 御用始め、県知事連発。五日 選挙管理委員会、参議院補欠選挙告示。七日 梅田地区公民館落成式。八日 消防分団長会議。永塩地区土地改良起工式。九日 特別委員会、農家組合長会議。十日 選挙管理委員会。十一日 町村長会議。十二日 消防出初式。玉名平野総合改良促進期成会理事會。十五日 成人式。十六日 当初予算打合せ会。十八日 港灣拡張。海岸堤防について県との打合せ会。決算監査開始。公明選挙啓発。二十日 財務局融資関係監査。藤田自治政務次官来町。二十三日 町村長議長合同会議。鉄道管理局、県建設局事務所との将来の鉄道敷設についての打合せ。行政事情相談。二十四日 港灣関係調査。公明選挙啓発。二十六日 選挙管理委員会。二十八日 大蔵省より現地視察。二十九日 知事、参議補欠選挙。三十日 漁場復旧調査(県より来庁)。(町総務課)

郷土史研究に貢献した

清住尊義氏(下東町) (故人) 清住尊義氏は、明治二十八年七月育の向上を計るため母親学級を三十日に出生、長年、県立熊本農業学校や青年師範学校に勤続されて現在、婦人学級の母体を取り、退職後は清台寺の住職となつた。又、先生は専攻が文学で、郷土史研究にも深い関心をもち、P.T.A会長在職中、昭和二十七年十二月八日、長洲郷土物語を著し、P.T.Aより発行し、郷土史研究に貢献された。

嫁入歌 保存普及する

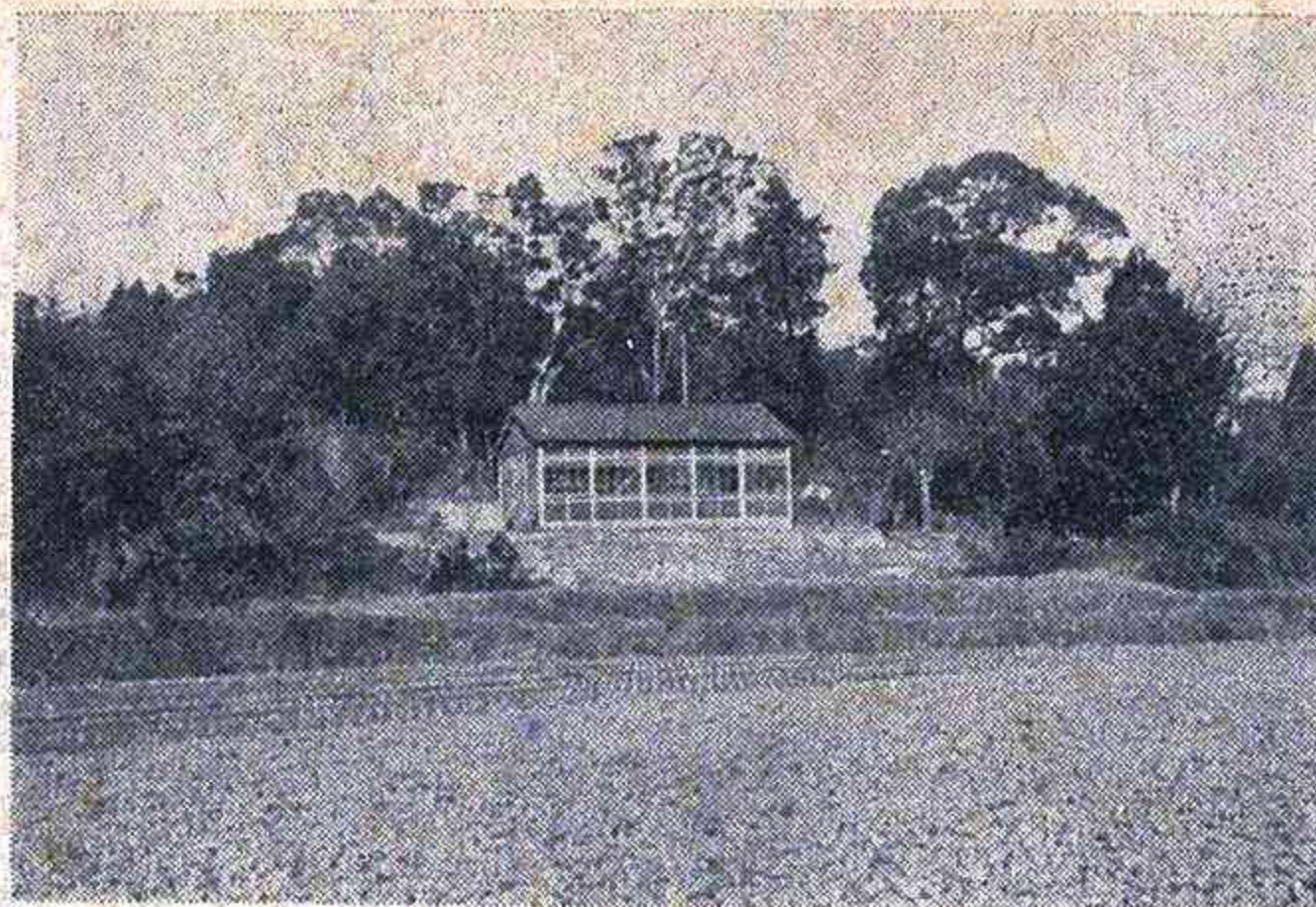
宮部メイ氏(折地) 宮部氏は、明治二十二年十一月九日出生。旧姓は鈴木。昭和十二年より戦後二十三年まで十一年間、六栄村婦人会長として、婦人教育の第一線で活躍し、又、戦時中の人手不足の程の秀才で、卒業後、荒尾の小学校に教員として勤めた。昭和二十三年には民生委員となり、三十七年まで十四年間務め、同年、公選の教育委員となり、村の教育の向上のために努力してきた。(林田記)

未熟な成人としての私達の行動を見守り御指導いただきたい。社会の一員としての自覚を新に頑張りようと思ひます。 米村菓子店 菓子 一三〇枚 辰巳屋百貨店毛布 五〇〇枚 吉田貞光 二、〇〇〇円 添島医院 六二、二二三元 県社協賛分金 六一、二二三元 町社協賛費 七、一九四円 合計 一五、一五五〇円 配分左記の通り 被保護世帯 二二七、四四四名 医単(入院) 世帯一八、五五四名 要保護世帯 四六、一九五名 養老院 二二、一二名 計 二〇三、七〇五名 世帯割一五〇円三〇、四五〇円 人頭割一五〇円一〇五、七五〇円 計 一三六、二〇〇円 要保護児童 一、五二四円 折地老人会 七〇〇円 在京長洲会 五、〇〇〇円 愛の一口塔 一、五二四円 長洲町草子組合 一、〇〇〇円 長洲中学校 一、五六三元 長洲小同P.T.A一〇、一六六円 長洲町職員 三、〇三七円 計 一三六、二〇〇円

鷺巣、梅田 二公民館落成

鷺巣公民館竣工

城 戸 主 頼



落成した鷺巣公民館

今頃公民館が今日まで実現に至らず、のびのびと進んだかど物にひたり、総ての会合は個人の宅で行なわれていたのが実情で、笑いのたねにならぬか、実情なかなかに、作らねばならぬ。それは区長さんはじめ、区民の強い念願であり、一日も忘れ何回となく、思ふことのできない問題でした。ちよとよその時、清里小学校の建替えに伴い、音楽教室の拡張、見る見るうちに解体し、テララ一五台、三輪車一台に積込み運搬し、区のはば中央に位置するうつろたる鷺巣神社の境内に突貫工事で切開き、地馴らしをし、老樹大木に包まれた、一寸他所では見られない風光明媚な地点に、採光、通風に富んだモダンな公民館が見事に、区民の一致協力で十二月三十一日に竣工しました。

多忙な年の瀬も顧みず、十二月十日、区民総動員で現地に赴き、見る見るうちに解体し、テララ一五台、三輪車一台に積込み運搬し、区のはば中央に位置するうつろたる鷺巣神社の境内に突貫工事で切開き、地馴らしをし、老樹大木に包まれた、一寸他所では見られない風光明媚な地点に、採光、通風に富んだモダンな公民館が見事に、区民の一致協力で十二月三十一日に竣工しました。

農業者の幸のために

町経済課長 山本正英

一、日本農業の現在のすがた
日本経済は近年異状な成長を遂げつつあります。所得倍増と言ふ現内閣の方針に沿って諸種の産業はめざましい発展を見せており、農業はこれに足並を合せることができず所得も他の産業に比べて極めて低位にある現状であります。

二、日本農業の直面していること
我が国でも昨年の十月一日から外国貿易の自由化が八十八%程度自由化されましたが、これは次第に拡大されるものであり、農業生産物の殆どが自由化され

三、構造改善について考慮すべきこと
日本の経済成長に伴って個人の所得も伸び、したがって国民の生活にも大きな変化が起きて参りました。食糧について言え

四、国や県の施策
国は農業基本法の制定にもとづいて農業構造改善事業に対し

五、農協の整備強化
農業構造改善事業に要する資金を取り扱う農協が強く整つて

六、先づ農協合併から
「先づ農協合併から」と言うことを深く肝に銘じて昭和三十八

七、三十八年は長洲町にとって
有明工の建設の年である。町の主要道路の舗装を初め、建設の度合は着々と進められるであ

八、私たちが町民は、建設の度合と
テンポを合せて心の準備を進めて行かなければならぬと思ふ

区民の奉仕作業により 梅田公民館落成

一月七日、梅田公民館が落成した。十二月一日から、百十三日、世帯別奉仕作業で完成したのである。

建設二八坪で天神さんの境内に建てられた。今後梅田区民の集いの場として、又、青年団、婦人会の集いの場として、大いに社会教育の向上に活用されることであろう

道路を歩く人へのお願い
道路を歩く人へのお願い、被害者の二〇%は歩行者です。

自動車やバイクは十分に整備して
自動車やバイクを運転する人へのお願い。

せまい道路から、広い道路へ出る時は、一旦停車又は徐行して
せまい道路から、広い道路へ出る時は、一旦停車又は徐行して。

長洲町社協に寄附
長洲町大字長洲一、二五九番地、故塩水功助殿の妻塩水知子殿、

一九六三年は雪に開けた年である。来る日も来る日も、雪、雪の一月であった。

恐ろしい火事を未然に防ごう

又、長洲名物の屋火事があけられ、火事は土台まで燃りましたね」と、二月四日の火災について、

失火の地元である新町の区長さんから、次のような町民の皆さんへの御礼の手紙が来たので掲載します

区前田静枝宅の火災に当り、前田宅は全焼となりましたが、幸い類焼を免れましたことは、

常日頃、家庭でも特に火元には御注意なされておられること、は存じますが、どうか、他山の石とせず、この機会に再び御留意あらんことを喚起して

長洲町消防出初式は、一月十日前で長洲中のバンドを先頭に二日管内十五分団五百名が出場

雪の消防出初式 盛大に挙行
長洲町消防出初式は、一月十日前で長洲中のバンドを先頭に二日管内十五分団五百名が出場

古きもの新しいものが、自然に摩擦を起さず融合できるように務めていきたいと思ふ。

〔町民消息欄〕
(結婚) 本村 西男 荒尾市へ、船津 純子(上沖州)

(出生) カッコ内は父の名、松高 和美(重人 上宝町)、大田 幸子(敏男 宮野町)

村上 徹也(未人 平原町)、関口 洋子(秀雄 塩屋町)

